

日本周辺国際魚類資源調査

(マグロ類・サメ類)

清藤 真樹

目 的

国際海洋法条約に基づき、公海を回遊しているマグロ類及びサメ類の科学的データを完備するための調査を行う。

材料と方法

1 漁獲状況調査

魚市場等で水揚げ伝票から漁獲月日、漁法、銘柄、体重等のデータを収集する。

①マグロ類：小泊漁協、新深浦町漁協岩崎支所、深浦漁協、三厩村漁協(以上、日本海海域)、大間漁協(以上、津軽海峡海域)、尻労漁協、六ヶ所海水漁協、八戸みなと漁協、(株)八戸魚市場(以上、太平洋海域)の9ヶ所

②サメ類：八戸みなと漁協、(株)八戸魚市場の2ヶ所

2 生物測定調査

深浦漁協、三厩村漁協、大間漁協で、漁獲状況調査に加え、1尾当たりの体重、尾叉長データを収集する。

結 果

1 漁獲状況調査

①マグロ類

調査対象9地区全体では743トンと前年(553トン)の134%だった。海域別にみると、日本海海域では462トンと前年(262トン)の176%、津軽海峡(三厩、大間)では236トンと前年(236トン)の100%、太平洋海域では46トンと前年(55トン)の84%であった(図1)。

日本海の新深浦町漁協岩崎支所、深浦漁協は、近年5年間の定置網の漁獲割合が特に高く90%以上であり、6月～7月に漁獲のピークとなっている。2010年は6月に新深浦町漁協岩崎支所で68トン、深浦漁協で56トンとほぼ同等の漁獲量でピークを迎えたが、2011年は岩崎で144トン、深浦で31トンと偏った漁獲が見られた。

釣り、延縄を主体とした日本海北部の小泊漁協から、津軽海峡の三厩村漁協、大間漁協にかけては、昨年同様7月～12月にかけて平均的に漁獲された。太平洋側は他の2海域に比べて漁獲は少ないが、尻労で5月と11月の2回ピークが見られた(図2)。

②サメ類

2ヶ所に水揚げされたさめ類の漁獲量は479トンと前年(360t)の133%であった(図3)。

冬と春にピークが見られ、2011年は1月に162トンと最も多く漁獲された(図4)。

2 生物測定調査

深浦漁協では伝票記録6,398尾中887尾、三厩村漁協では486尾中475尾、大間漁協では2,001尾中1,189尾の尾又長を測定した。深浦漁協では5月は主体が尾又長115cmであったものの、8月以降は70cmと小型化した。三厩村漁協と大間漁協は、ほぼ同じ傾向を示し、期間を通じて150cm付近が最頻値となった。また、三厩村漁協では8月、大間では7月～12月の間、200cm付近の大型個体が見られた（図5）。

なお、調査結果については、独立行政法人・水産総合研究センター取りまとめの「資源評価（マグロ類・サメ類）」に活用された。

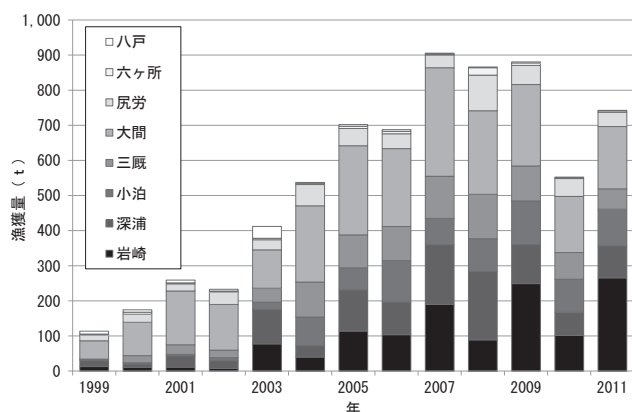


図1 年別、地区別マグロ漁獲量

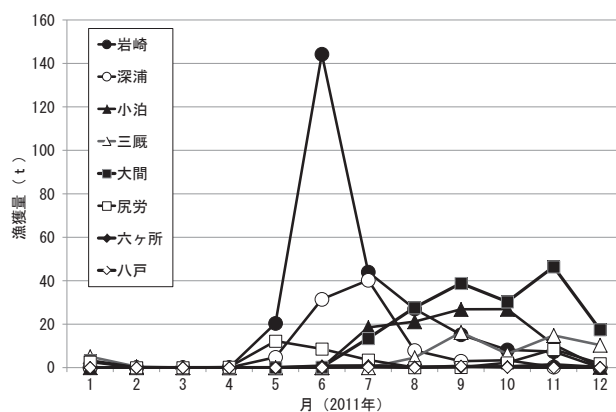


図2 月別、地区別マグロ漁獲量

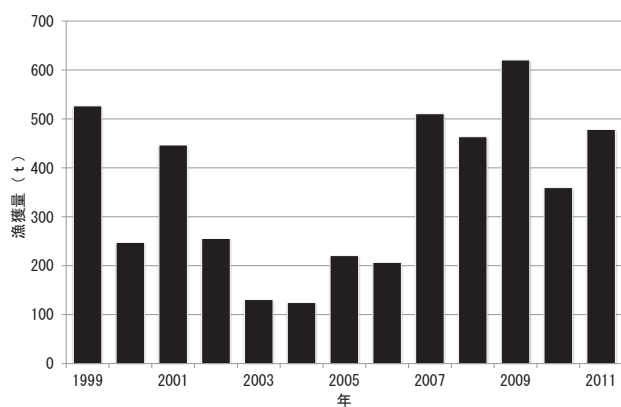


図3 年別サメ類漁獲量

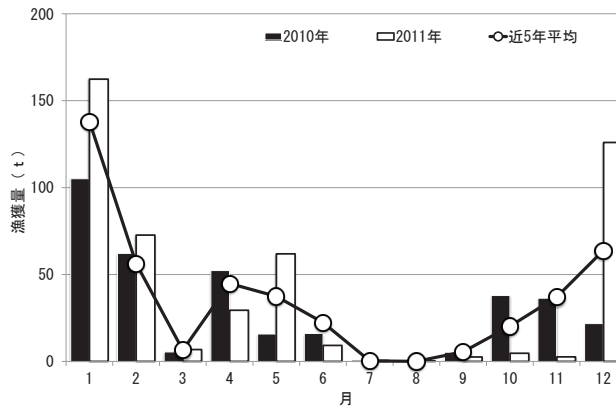


図4 月別サメ類漁獲量

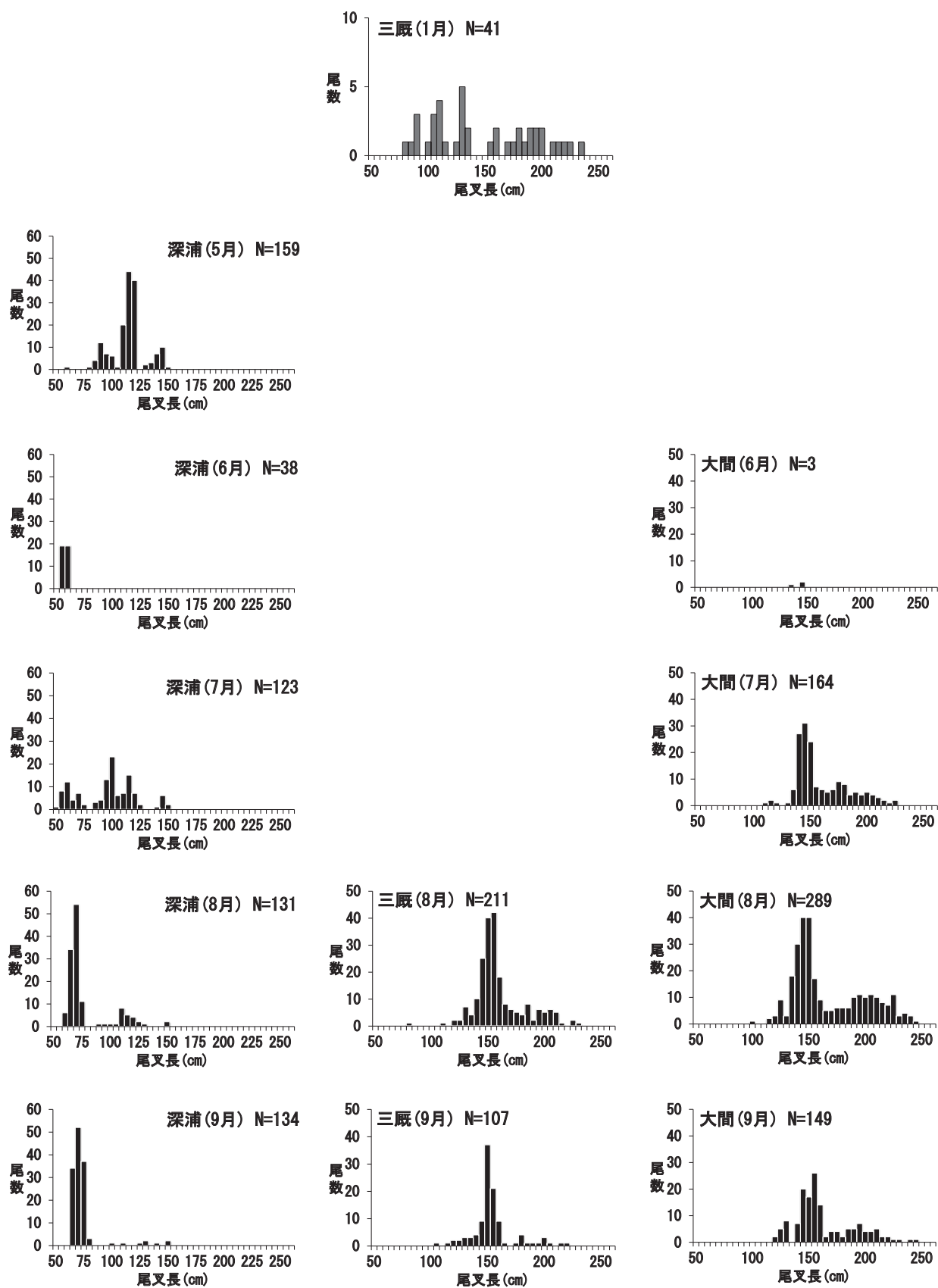


図 5-1 深浦、三厩、大間の魚体測定結果 (1 月～9 月)

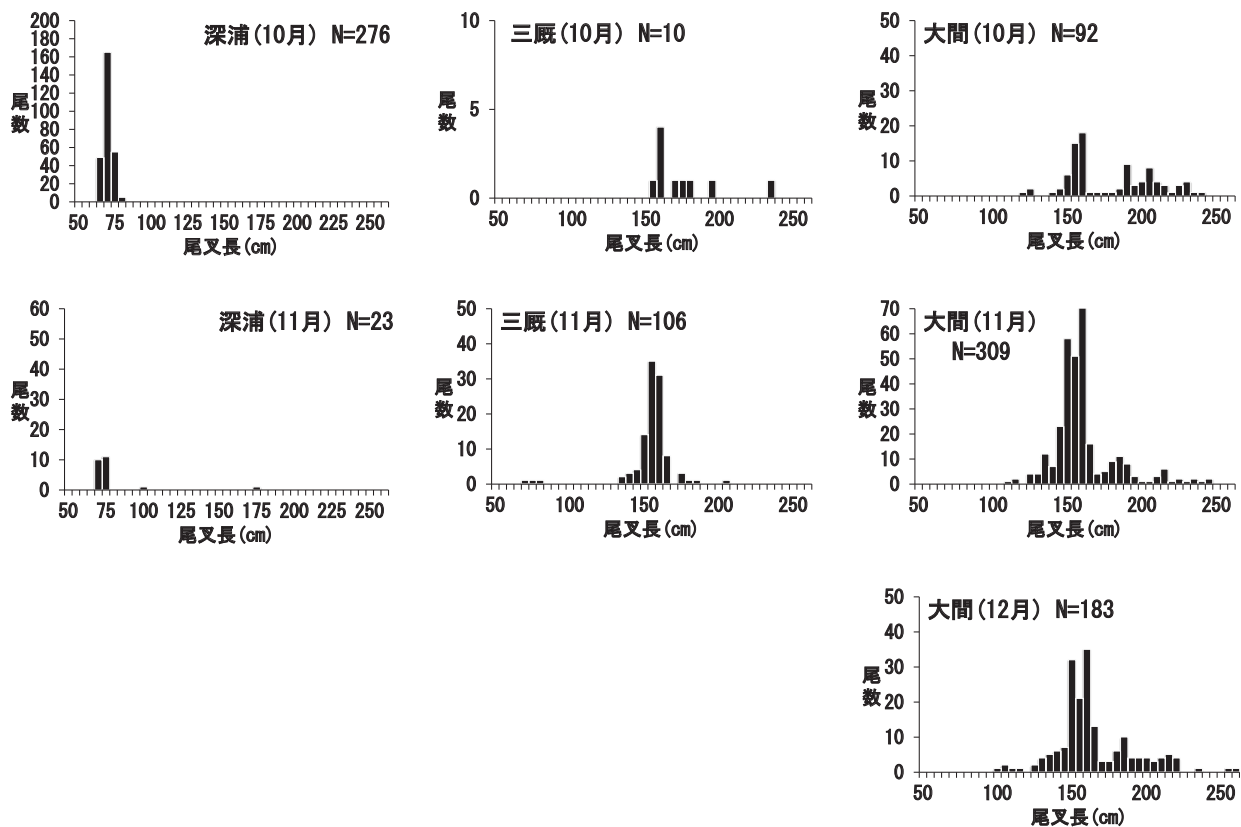


図 5-2 深浦、三厩、大間の魚体測定結果（10 月～12 月）